

発行:平成16年10月29日

1. 香川県教育委員会との連携事業～かがわ県民カレッジ～

平成16年度より、教育学部と法学部の先生方に授業の一部を社会人学習者に開放する「**公開授業**」が始まりました。耳慣れない言葉かも知れませんが、簡単にご紹介します。

<授業に社会人が参加する>

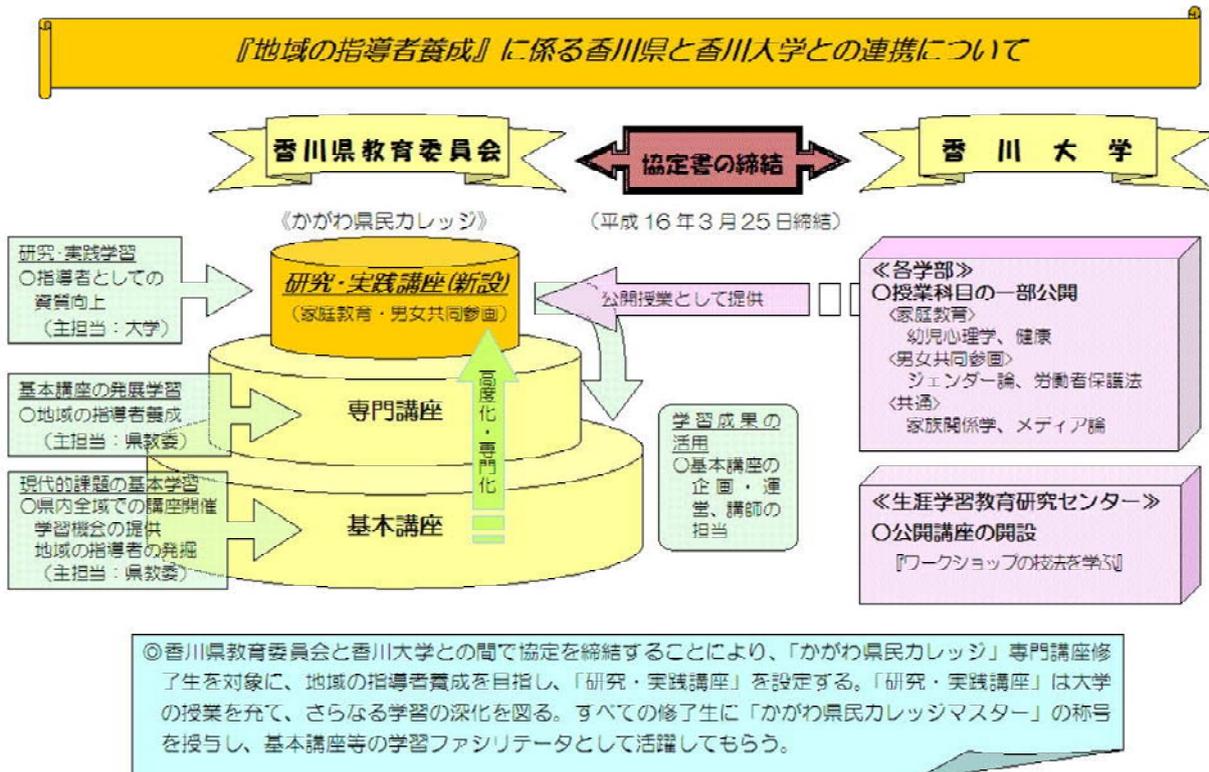
このように書くと、かつての聴講生や現在の科目等履修生がイメージでき、理解しやすいと思います。違いは、授業内容によって開放する時間数が自由に設定できたり、単位認定の必要がなかったりということにあります。受講料に関しては、時間数に応じて公開講座相当の料金をいただいています。

公開授業はあくまでも学生対象の授業ですし、その目的の範囲内で行われるべきだと考えています。したがって、公開授業の趣旨につきましてはパンフレットや募集案内への記載、受講者へのオリエンテーションを通じて周知の徹底を図り、授業に混乱を生じさせないように配慮しています。

<連携に至った経緯>

生涯学習部門における香川大学の地域貢献を検討していく過程で、香川県教育委員会生涯学習課より「かがわ県民カレッジ」の見直しが提案されました。当該カレッジは指導者養成を目的に掲げているものの、学習時間や学習内容の専門性が十分であるとは言い難いこと、地域活動へと展開させる原理やノウハウ等のプログラムが提供できていないことなど、その課題が明らかとなりました。

この中には、大学の現有する教育プログラム(授業)で対応可能なものが少なくありませんでした。そこでカレッジへの貢献、大学開放のさらなる充実、大学のイメージ戦略などさまざまな観点から、公開授業の実施が香川大学にとって重要な事業となり得るのではないかと考え、協定を結ぶに至りました。



<今年度の公開授業一覧>

公開授業名	担当教員	曜日・時限	回数	開設学期	受講料	受講者数
家族関係学※	時岡晴美	火・2限	10回	前期	7,200円	18名
幼児心理学	田中吉資	月・3限	6回	後期	6,200円	10名
健康	藤元恭子	木・2限	6回	後期	6,200円	8名
メディア論	武重雅文	金・2限	10回	後期	7,200円	10名
ジェンダー論	加野芳正	木・3限	9回	後期	7,200円	12名
労働者保護法	緒方桂子	月&木・1限	12回	後期	8,200円	5名
					合計	69名

※学生受講者がゼロだったため、実質的には公開講座となりました。

<今後の展望>

今年度の評価から、地域の需要の高い授業科目についてはより広く開放する必要があるようです。先生方にはご無理をお願いになりますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

公開授業「家族関係学」を担当して

香川大学教育学部教授 時岡 晴美

公開授業の最初の科目となった「家族関係学」を担当しました。受講生の方々は大変熱心で、楽しく出席して頂いたように見受けられました。数回の小レポートや授業後の感想など拝見すると、「子ども」の経験しかない学生たちとは異なり、「夫婦」「親」「祖父母」なども経験した方々のご意見は重みがありますし、家族の実体験をふまえた意味深い質問を頂くこともありました。今回は学生と一緒にできなかったこともあり、受講生の方々の興味関心に合わせて毎回のように講義内容を検討し直すなど準備が大変でしたが、私にとっても大変に楽しく充実した講義になったと思います。受講生の方々には、今後の生活に何かお役に立てて頂き、益々ご活躍下さいませようお祈りします。

家族関係学を受講して

悴山 明美

今まさに「家族関係」を築いている自分にとって、この問題から距離をおいて客観的に見ることは難しい作業でした。特に、子どもの成長は少なからず家族の関係に影響を与え、右往左往する現実の自分がここにいるからです。その影響は必ずしも両者にとって心地よいものではなく、多忙な日常はそれをじっくり見つめるゆとりさえありませんでした。今回の受講は、自分自身の生活を振り返る意味でとても意義深く、家族との関わりの中でもっと敏感なセンスを磨く必要性を感じました。



2. 平成16年度高松市地区公民館職員研修会について

<公民館とは>

地域の生涯学習を推進する上で要となる役割を果たしているのが公民館です。災害が起こった時には避難場所として役立っていますが、本来の設置目的は人びとの学習に供する施設なのです。公共性の観点からいうと、単なる貸し館ではなく、地域づくりの拠点としての機能も重要となっています。

高松市には現在41の公民館があります。

<研修開設の経緯>

高松市の地区公民館には体系的な職員研修の機会がありませんでした。背景には、職員が嘱託であること、雇用年限が4年となっていること、平成18年度よりコミュニティセンターへ移行することなどがあり、市としても積極的に職員研修を行う理由がなかったようです。

地域貢献を標榜するセンターとしては、地域の生涯学習推進の中核施設である公民館にもっと力をつけてもらおうと、市に働きかけて平成15年度より実現した研修です。月1回の研修ですが、各館から必ず1名は参加する悉皆研修となっています。社会教育の基礎理論から実践的方法論まで多彩なテーマでプログラムを構成しています。

<研修の成果>

まだ2年目ということもあり、成果が十分出ているとは言い難いですが、職員自らが新しい学習方法であるワークショップの手法を経験し、住民参加型の学習を企画したということも聞いています。その成果が全体に広がるよう期待しているところです。

<平成16年度研修プログラム>

昨年度のプログラムが基礎理論を中心に組み立てられていた関係で、今年度は実践的な技能を高めてもらうことに主眼を置きました。

日程	テーマ	担当
5/20(木)	生涯学習の理念と公民館	清國祐二
6/18(金)	学習活動へのワークショップ活用の視点	山本珠美
7/21(水)	公民館と地域課題(ワークショップ)	清國祐二
8/20(金)	グループ・団体の育成(ワークショップ)	山本珠美
11/5(金)	社会教育施設の連携	山本珠美
11/19(金)	社会教育職員の役割	清國祐二



3. 『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』第10号原稿募集(予告)

『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』をご存じですか。

正式な原稿募集のお知らせは12月中旬頃あらためていたしますが、生涯学習を研究する本学教員、センターが主催、共催あるいは協力する講座等を担当した本学教員、また、センターが主催、共催あるいは協力する講座を担当した学外からの講師で編集委員会が認めた者であれば、どなたでも投稿することができます。原稿締切は2月末日頃の予定です。

多くの方のご投稿をお待ちしております。



本件に関するお問い合わせは…

山本珠美

内線1271

yamamoto@cc.kagawa-u.ac.jp

4. 生涯学習教育研究センターから皆さまへ

<沿革と背景>

各学部・研究科は多少の違いはあるにせよ、学生を受け入れ、育て、社会に送り出す役割を果たすという点で、比較的わかりやすい組織であるかと思います。

一方、学内共同教育研究施設はどうでしょうか。よもや、その存在自体が知られていないかも???

「生涯学習教育研究センター？何やっているの？」

悪意はない(と思いたい)その一言が悲しい今日この頃。

今年度創刊したNEWSLETTERの中でセンターの活動を少しずつご紹介してまいりましたが、ここでセンターの沿革について簡単にふれたいと思います。

- 1977(昭和52)年 大学教育開放センターの創設が提言される
- 1978(昭和53)年 大学教育開放センター設置
- 1979(昭和54)年 経済学部構内に大学教育開放センター専用施設が完成
- 1991(平成 3)年 「大学教育開放センター」から「生涯学習教育研究センター」に名称変更される
- 2000(平成12)年 研究交流棟竣工に伴い現在地に移転

同機能を持つセンターとしては、国立大学法人中、東北大学、金沢大学に次ぐ全国で3番目に設置された、伝統あるセンターなのです。では、なぜこのようなセンターが設置されるようになったのでしょうか。その理由について、『香川大学五十年史』では次のように述べられています。

「大学が学問・研究の府として、また中等教育終了直後の青年に対する全日制の教育機関として存在するだけでなく、その研究の成果を社会に還元し、その教育資源を広く市民に開放すべきであるという理念から、欧米の大学では、それを大学の社会に対する責務として、成人教育のための独立した一つの部局を設けているのが普通である。／それは、大学の基本的機能として広く知られている研究と教育と並んで、大学開放あるいは大学拡張をいわば第3の機能として積極的に位置づけ、その確認に立脚して、これら三つの機能を有機的に結びつけながら遂行していくところにこそ、社会的存在としての大学の存在理由があるとす「大学の理念」に基づいている。」(『香川大学五十年史』p.56)

<2007年大学全入時代を前に>

すでに様々なメディアで報道されているように、文部科学省の試算によると、大学・短大に進学を希望する志願者の数と、国内の全大学・短大への入学者の総計が2007年度に同数になる「大学全入時代」を迎えます。社会人学生こそが中心になるという時代も、目前に迫っているのです。そんな来たるべきXデーの前に、大学における成人学習のモデルを作っていかなければなりません。そのためにも、今年度のパイロットプロジェクトのような新企画を含め、受講生のみならずご担当の先生方にとっても「やってよかった」と満足して頂けるセンター事業を作り上げていきたいとの思いであります。

11月中にはご連絡がいくかと思いますが、現在、平成17年度公開講座を新装オープンできるよう、着々と準備を進めています。

「公開講座？ちょっとやってみようかな」という方、大歓迎！！

奮ってご参加頂けることを、センター教職員一同、お待ちしております。

編集後記

・4月に着任して早半年が経過しました。この間、仕事を通じて、またはインフォーマルな形で、少しずつではありますが各学部・センターの教職員の方々と知り合う機会に恵まれました。様々な経歴をお持ちであったり、また研究内容からは想像できない意外な一面に接したり、日々刺激を受けております。当センターは組織としては弱小です。学内外からのご協力抜きには成り立ちません。これからも引き続きご支援下さいますよう、よろしく申し上げます。(山本)

・次回NEWSLETTER(1月下旬発行予定)では、第26回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会(11月26日、琉球大学)の報告と平成17年度公開講座実施要領について取り上げる予定です。